

目次

第1章 総則.....	1
1.1 目的と利用	1
1.2 前提条件	1
1.3 計画の対象	1
1.4 既存建築物への対応	2
第2章 災害拠点建築物の立地の選定、配置及び規模等	5
2.1 災害拠点建築物の立地の選定	5
2.2 災害拠点建築物の敷地及び配置計画	5
2.3 災害拠点建築物の規模.....	5
2.4 災害拠点建築物内部での機能分散、配置計画等	5
2.5 ライフラインの状況を踏まえた業務計画に対応する建築計画.....	5
第3章 災害拠点建築物の機能確保の目標.....	12
3.1 災害拠点建築物の大規模災害時の機能確保	12
3.2 時間軸に沿った機能確保目標の設定	12
第4章 災害拠点建築物の維持・保全、運用・管理...適用技術①.....	18
4.1 基本事項	18
4.2 災害拠点建築物が大規模災害時に機能を確保するための維持・保全、運用・管理.....	18
第5章 荷重及び外力...適用技術③④.....	21
5.1 地震	21
5.2 暴風及び竜巻.....	21
5.3 津波	21
5.4 その他の荷重及び外力.....	21
○総プロ関連成果・・・③外壁材の脱落を考慮した耐津波設計法	22
○総プロ関連成果・・・④低抗力型建築物の耐津波設計法.....	22
第6章 災害拠点建築物の構造躯体の設計...適用技術①	26
6.1 構造設計の方針	26
6.2 地震に対する設計	26
6.3 暴風及び竜巻に対する設計	26
6.4 津波に対する設計	26
6.5 その他の荷重及び外力に対する設計	26
○総プロ関連成果・・・①壁を活用した鉄筋コンクリート造建築物の損傷制御設計法	26
第7章 災害拠点建築物の非構造部材の設計...適用技術②⑤.....	34
7.1 非構造部材の設計の方針	34
7.2 地震に対する設計	34

7.3 暴風及び竜巻に対する設計	34
7.4 津波に対する設計	34
7.5 その他の荷重及び外力に対する設計	34
○総プロ関連成果・・・②拠点室における天井設計法	34
○総プロ関連成果・・・⑤外装材の対飛来物衝撃設計法	34
第8章 災害拠点建築物の建築設備の設計...適用技術⑥	40
8.1 災害の種別・規模に対応した設備計画	40
8.2 耐震性の確保.....	40
8.3 浸水への対応性の確保	40
8.4 ライフライン途絶への対応性の確保	40
8.5 機能継続のための運用・管理技術	40
8.6 被災後の活用を踏まえた防災設備の活用可能性の検討.....	40
8.7 機能継続に有効な新技術導入の検討	40
○総プロ関連成果・・・⑥建築設備の機能維持技術.....	41
注：適用技術等の番号（①～⑥）は、災害拠点総プロの技術資料（＜技術資料＞参照）に揃えてい るが、本ガイドラインの構成に沿って展開しており、目次での順番は一部前後している。	

＜技術資料＞

- ①壁を活用した鉄筋コンクリート造建築物の損傷制御設計法
- ②拠点室における天井設計法
- ③外壁材の脱落を考慮した耐津波設計法
- ④低抗力型建築物の耐津波設計法
- ⑤外装材の対飛来物衝撃設計法
- ⑥建築設備の機能維持技術

＜災害拠点建築物の計画・設計例＞

- ①内陸に位置する庁舎建築物
- ②沿岸に位置する庁舎建築物